

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

農学部では、宮崎大学学部規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（農学）の学位を与える。

学 部（全学科に共通する部分）

1. 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。
 - （1）倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。
 - （2）チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。
 - （3）多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。
2. 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
3. コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
 - （1）言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
 - （2）他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
 - （1）情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。
 - （2）問題解決力：問題を発見し、その問題を論理的に分析し、解決のための方策を考察できる。

植物生産環境科学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
 - （1）文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
 - （2）農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
 - （3）植物生産に関する基礎的・応用的知識：植物生産に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
 - （4）生産環境に関する基礎的・応用的知識：生産環境に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
 - （5）環境調和型農業に関する基礎的・応用的知識：環境調和型農業に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
 - （6）植物生産と生産環境に関する国際的視点、社会貢献力および指導力：植物生産と生産環境に関する国際的視点、社会貢献力および指導力を有し、社会で活用できる。

森林緑地環境科学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
 - （1）文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
 - （2）農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
 - （3）森林・緑地の機能に関する基礎的・応用的知識と国際的視点や課題解決能力：森林・緑地の機能に関する広い知識を修得し、国内外の諸課題に対応できる。
 - （4）自然環境や国土保全、水資源利用に関する基礎的・応用的知識：自然環境や国土の保全、水資源の安定的な利用など、安全で持続可能な国土づくりに寄与できる。
 - （5）樹木・菌類、非生物材料の特性に関する基礎的・応用的知識：樹木・菌類、非生物材料等の特性を深く理解し、適切に活用することができる。
 - （6）多機能型森林緑地管理に関する基礎的・応用的知識と計画・実行力：自然環境と生物資源利用の調和を目指した森林緑地管理を計画・実行できる。
 - （7）環境と調和した材料の開発力と緑化の実践力：環境と調和した材料の開発や緑化を実践できる。

応用生物科学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
- (1) 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
 - (2) 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
 - (3) 数学および自然科学に関する基礎知識：数学および化学、生物などの自然科学について理解し、応用できる。
 - (4) 応用生物科学に関する知識：応用生物化学・微生物機能開発学・植物機能科学・食品製造学・食品栄養生化学の5分野に関する基礎および専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる。
 - (5) 技術者の社会的責任に関する理解：応用生物科学の知識・技術が社会に及ぼす影響を認識し、技術者として必要な責任ある判断と行動について考えることができる。
 - (6) 制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる力：応用生物科学に関する課題解決のための筋道をデザインし、自立して仕事を計画的に進め、期限内に終わることができる。

海洋生物環境学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
- (1) 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
 - (2) 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
 - (3) 水圏（生物と環境）に関する専門的基礎知識と専門的知識の応用力：水圏（生物と環境）に関する専門的基礎知識を有し、その知識を社会で応用できる。
 - (4) 環境と食糧生産の諸問題に関する分析力：環境と食糧生産の諸問題を、データを基に分析できる。
 - (5) 環境と食糧生産の諸問題の解決に貢献する能力：分析した環境と食糧生産の諸問題を、解決に導くための貢献ができる。
 - (6) 専門分野における地域社会や国際社会で活躍できる能力：専門分野における域社会や国際社会で、他と協力し活躍できる。

畜産草地科学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
- (1) 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
 - (2) 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
 - (3) 草地・飼料の基礎的・応用的知識・技能：草地・飼料に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
 - (4) 家畜の基礎的・応用的知識・技能：家畜に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
 - (5) 資源・環境の基礎的・応用的知識・技能：資源・環境に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
 - (6) 食料・畜産業・農村の基礎的・応用的知識・技能：食料・畜産業・農村に関する基礎的・応用的知識・技能を有し、社会で活用できる。
 - (7) 専門分野に関する国際性と課題解決能力：専門分野に関する国際性と課題解決能力を有し、社会で活用できる。

獣医学科

5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
- (1) 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
 - (2) 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
 - (3) 獣医専門知識：獣医師としての専門知識を有し、社会で活躍できる。
 - (4) 獣医的倫理観：獣医師としての正しい倫理観を有し、社会で活躍できる。
 - (5) 獣医的応用・実践・開拓力：獣医専門知識を生かして、応用・実践・開拓ができる。
 - (6) 地域・国際社会への貢献能力：獣医専門知識を生かして、地域や国際社会へ貢献できる。

グローバル人材育成学部教育プログラム

グローバル人材育成学部教育プログラムでは、宮崎大学学部規則に規定する修業年限以上在学し、本プログラム所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定し、学士（農学）の学位を与える。

1. 人間性・社会性・国際性：社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使し、社会の発展のために積極的に関与できる。
 - (1) 倫理観：自己の良心と社会の規範やルール、モラルに従って行動できる。
 - (2) チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。
 - (3) 多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。
2. 主体的に学ぶ力：自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる。
3. コミュニケーション能力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
 - (1) 言語リテラシー：日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
 - (2) 他者理解・自己表現力：相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。
4. 課題発見・解決力：課題を発見し、情報や知識を複眼的、論理的に分析して、その課題を解決できる。
 - (1) 情報リテラシー：情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集し、数量的スキルに基づいて分析し、効果的に活用することができる。
 - (2) 問題解決力：問題を発見し、その問題を論理的に分析し、解決のための方策を考察できる。
5. 知識・技能：学士課程教育を通して、人類の文化、社会、自然、地域及び専攻する学問分野における知識を理解し、身に付けた技能（実践力）を活用できる。
 - (1) 文化、社会、自然、地域の理解：人類の文化、社会、自然及び地域に関する知識を理解できる。
 - (2) 農学に関する基礎知識：農学に関する基礎知識を有し、社会で活用できる。
 - (3) 生物資源およびバイオテクノロジー分野に関する専門性と技術：生物資源およびバイオテクノロジー分野に関する専門性と技術を有し、社会で活用できる。
 - (4) 専門分野における高度な英語でのコミュニケーション能力：専門分野において英語で効率的に他者とコミュニケーションができる。
 - (5) 専門分野に関する国際性と課題解決力：生物資源やバイオテクノロジー等グローバル人材育成学部教育プログラムを通して培った国際性と課題解決能力を使って国内外の諸課題に対応できる。